公益財団法人熊本県立劇場　伝承芸能調査事業　市町村データベース（宇土市）

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合先	祈願
1	宇土市	本町1丁目	宇土の御獅子舞	うとのおんししまい	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年6月26日	10月19日	西岡神宮	西岡神宮（和銅6年＝713創建）の祭礼に獅子組により奉納される獅子舞。元文5年(1740)、細川興文が三宮社（永承3年＝1048に旧来の春日、住吉両社に八幡宮を合祀して成立＝西岡神宮の前身）に獅子舞奉納を思い立ち、長崎に人を遣わして唐伝来の舞の型を研究し、さらに一層工夫を加えて完成したものといわれる。祭礼に先立つ10月1日に飾卸をし、19日の祭礼には神輿を先導して市内を舞い回り、最後に西岡神宮の境内で舞い納める。舞は、(1)楽廻り(2)春眠(3)そらとぼけ(4)楽の遊び(5)背くらべ(6)玉拾い(7)合戦(8)千秋万歳楽の各所作から構成され、玉振り役の少年に2人立ちの雌雄2頭の獅子が対面して舞う。楽は太鼓、銅鑼、チャルメラでにぎやかに奏される。【熊本県ありのままHP2005】 本町一丁目の保存会が受け継いでいる”宇土御獅子舞”は熊本県の無形文化財に指定されている。元文5年（1740）細川月翁公が、長崎に伝わる唐風の獅子舞を西岡神宮に奉納したのが始まりとされ、長い時代を経ても、本町一丁目獅子組によって当時のままの姿で今日に伝えられている。この獅子舞は、銅鑼(ドラ)と鉦のリズムに合わせて雌雄二頭の獅子と童子が戯れる様子が表現され、荘重なる楽とともに玉振り、おきはな、楽の遊び、せい比べ、玉拾い、合戦、千秋万歳と舞納めるもの。毎年、西岡神宮の大祭に奉納され、獅子と相前後して牡丹の花の山車が町を練り歩く。【宇土市HP/2005】 宇土の御獅子舞は唐独特の舞方に工夫を重ね完成させたものである。【2001】	祭礼（神社行事）	宇土御獅子舞保存会	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	
2	宇土市	松山町	宇土松山の花棒踊り	うとまつやまのはなぼうおどり	宇土市無形民俗文化財 昭和46年8月28日	不定期	松山神社	島津藩の旅人から伝えられたと言われている。【2001】 上松山地区に伝わる踊りで，棒の先に赤・白の花をつけたことから花棒踊りといわれる。藩主の出陣の際に門出を祝って農民たちが晴れ着に身をつつみ，武器に模した槍の棒，刀の代わりの木刀，それに鎌を用いて踊った。戦場での激しい戦いを表わし，武道が踊りとなって今日の花棒踊りが生まれた。	【伝統芸能】風流芸	松山花棒踊り保存会	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	

3	宇土市	椿原町	椿原雨乞い太鼓踊り	つばわらあまごいたいこおどり	宇土市無形民俗文化財 昭和48年8月18日	田植え後のソウ祭り 7月中旬	椿原八幡宮	3年に1度椿原八幡宮に大太鼓を奉納し、サナブリ祭を行う。【2001】 《演目》太鼓踊り、ねんねこ踊り。《特色》男性50人が大太鼓をかつぐ、その太鼓にと鉦、笛に合わせて女性が踊る。ねんねこ踊りでは歌が付く。【1991】 椿原地区では，3年に一度，田植えが終わって一段落した7月最後の土日に椿原八幡宮で，雨乞い太鼓奉納が行われる。 面径1．3メートル，胴長2メートル余ある大太鼓を30～40人ほどの男性が担いで，83段もある椿原八幡宮への階段を登る。 境内では，大太鼓を御輿のように担いで練り歩き，勇壮な"ガブリ（太鼓を両側から大きく揺するもの）"も披露される。奉納された太鼓は交替で夜通し叩かれる。また，太鼓のリズムに笛や鉦をあわせた「雨乞い」や「ねんねこ」と呼ばれる曲も披露され，女性たちの踊りがこれに華を添える。	【伝統芸能】 風流芸	椿原区太鼓保存会	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	
4	宇土市	城塚町	城塚雨乞い太鼓踊り	じょうつかあまごいたいこおどり		随時	不定	田植えあがりのサナブリ（根付け祭り）に太鼓奉納を行った。集落の毘沙門天へ紅白の飾り付けた太鼓を奉納する。演目には「道太鼓」と「ねんねころころ」の2つがあり，夜通し交代しながら叩かれ，「堂ごもり」とも称された。太鼓と鉦は若い男性が，笛は若い女性が担当した。踊り手は菅笠に浴衣姿で，女性は手甲，脚絆を着けていた。女性は，握り飯，煮しめ，胡瓜のスワイ（酢漬け）などを作っておいて，祭りに出した。	【伝統芸能】 風流芸	城塚区太鼓保存会	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	
5	宇土市	神馬町	西岡神宮神楽	にしおかじんぐうかぐら		10月19日 10月20日	西岡神宮 松山神社	10月19日西岡神宮、10月20日松山神社【1991】	【伝統芸能】 神楽	西岡神宮	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	
6	宇土市	岩古曽町	上古閑雨乞い太鼓 川祭り	かみこがあまごいだいこ　かわまつり		田植時期	上古閑町内	カワマツリは田植えあがりの7月中頃に行われた。この祭りには，田植えが終わり農作業に一段落が着いた後の慰労の意味と，田に植えた稲がよく育つように祈願する雨乞いの意味とが込められている。また，カワマツリが終わるころから子どもたちが川で遊び始めるため，川に住む河童たちが子どもに悪さをしないように願う水除けの意味もある。 最近はカワマツリへの参加者が減少したため中断している。	【伝統芸能】 風流芸	上古閑区太鼓保存会	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	

7	宇土市	本町，新町，城之浦町	地蔵祭りの造りもん	じぞうまつりのつくりもん		8月23日 8月24日	宇土市本町，新町，城之浦町	《構成》《特色》【1991】 祭り当日は各町内の地蔵が沿道に引き出され，町の子どもたちにより美しく飾り付けられる。夜になればろうそくが灯され，子ども達が鉦を叩いて，「なむじのだいぶつさん（南無地蔵大菩薩），あげてくださいおさいせん」とはやし立てる。また，各町内では数多くの「造りもん」と呼ばれる歴史上の人物や動物，世相風刺，物語の１場面等を題材にして作られる大がかりな工作品を道路沿いに展示し，技巧や華やかさを競う。 宇土における地蔵祭りの始まりは，宇土藩初代藩主細川行孝が筑後善導寺末寺として，現在の本町６丁目に円応寺を建立して以降のこととされている。寺には6体の古い地蔵尊があり，地蔵祭りは，元はこの地蔵尊に対するものであったといわれている。	年中行事	宇土地蔵まつり実行委員会	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	
8	宇土市	三拾町	宮座まつり	みやざまつり		1月21日	中野公民館	宇土市三拾町中野区で毎年1月に行われる神事。この地区では住民が輪番で神様役をつとめ、その際の交替の儀式。松山神社の神様が、当時海岸だったこの地区に上陸したという故事にちなむ。氏子33世帯が毎年輪番で3人ずつ神様役（親神様、子神様2人）となる。神事の後、神様のシンボル「御幣」を背中に差し、おそろいの赤い袴姿で祭壇に並び、白い袴を着た前年の神様から杯を受けとる。大きい杯は直径55センチほど。神様役の3人は、並々と注がれたお神酒を参加者に回しながら飲み干すと、頭の上にかざして地区の平穏を祈る。この後、神様と参加者は公民館近くを練り歩く。【2007.1.22.熊日】	年中行事	中野区	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	
9	宇土市	松山町	松山神社秋季例大祭	まつやまじんじゃしゅうきれいたいさい		10月20日	松山神社	健やかな成長を願い、紅白のねじり鉢巻きをした赤ちゃんが土俵入りをする。アマチュア力士に抱えられ、しこ名をもらう。【2007.10.22.熊日】	祭礼（神社行事）	松山神宮	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	
10	宇土市	花園町	佐野山王祭礼	さのさんのうさいれい	宇土市指定無形民俗文化財 平成24年1月11日	旧暦の１１月の申（さる）の日	佐野地区	宇土市花園町の佐野山王神社に伝わり，７００年の歴史を持つといわれている。佐野山王祭礼（山王さん祭り・甘酒祭りとも呼ばれる）は，サルに扮した若者達が集落の山王神社に集い，「ホーライ，ホーライ」の掛け声をあげつつ甘酒の徳利を奪い合い，甘酒を振りかけ合いながら集落内を巡行し，最後に山上で空の徳利を投げ捨てるという祭礼。 基本的には甘酒の徳利を神霊のこもる容器とみなし，水田の耕作に関わる神霊をヤマへ送る霜月（旧暦１１月）の収穫儀礼。 この祭りは，旧暦の１１月の申（さる）の日に行われる。月に3回申の日がある年は中の申，月に2回申の日がある年は最初の申の日となる。 甘酒が振りかかった者は１年間無病息災で過ごせるといわれている。	祭礼（神社行事）	佐野区	宇土市教育委員会 文化課　文化財係 TEL0964-23-0156 FAX0964-58-1005	